VHF FM HANDY TRANSCEIVER

DJ-162SX　DJ-160SX

UHF FM HANDY TRANSCEIVER

DJ-462SX　DJ-460SX

取扱説明書

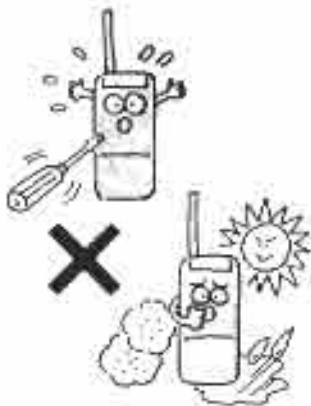
CIRFOLK トランシーバーをお買上げいただきましてありがとうございます。
本機の機能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読み下さい。またこの取扱説明書は必ず保存下さい。
ご使用中の不明な点や不具合が生じた時お役に立ちます。

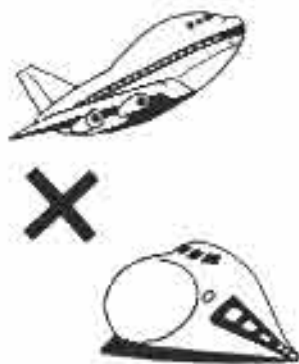
目次

この取扱説明書は、DJ-162SX、DJ-160SX、DJ-462SX、DJ-460SXをいっしょに説明しています。
イラストは、DJ-462SXを主にしていますが、外形およびキー、ツマミの操作は同じです。

1 ご使用の前に

必ずお読みください

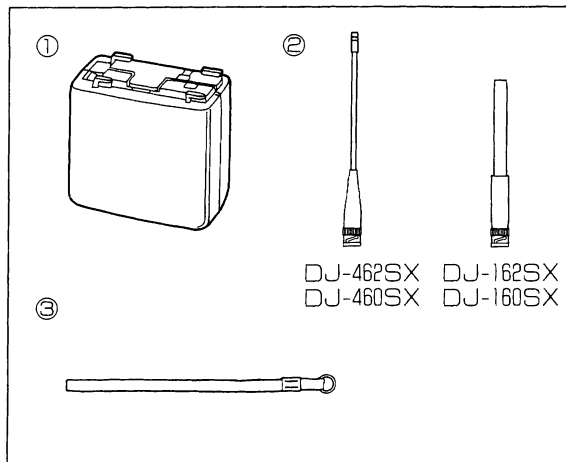
1-1 ご注意

- ケースをはずして内部に手を触れないで下さい。
- 乾電池の⊕、⊖を正しい方向に入れて下さい。
- 付属のアンテナを完全に取りつけてお使い下さい。
- 高温、多湿、ほこりの多い場所は避けてご使用下さい。
- 外部電源は必ず専用シガライターケーブル(EDC-13、EDC-16又はEDC-26)をお使い下さい。
  ノイズの多い電源にはEDC-26、
  ノイズの少ない電源にはEDC-16、
  ノイズのない電源にはEDC-13を
  お使い下さい。

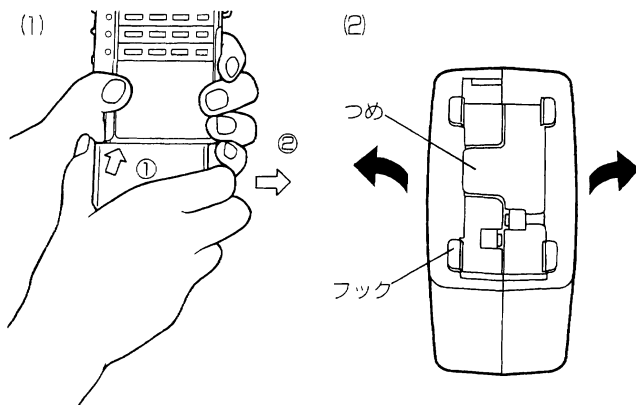
1-2 電波を発射する前に

ハムハンドの近くには、多くの業務用無線局が運用されています。これらの無線局の近くで電波を発射するとアマチュア無線局が電波法令を満足していても、思わぬ電波障害を起こすことがありますので、移動運用の際には、十分ご注意下さい。
特に次のような場所での運用は原則として行なわず、必要な場合は、管理者の承認を得るようにしましょう。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局及び中継局周辺など。

2 付属品について

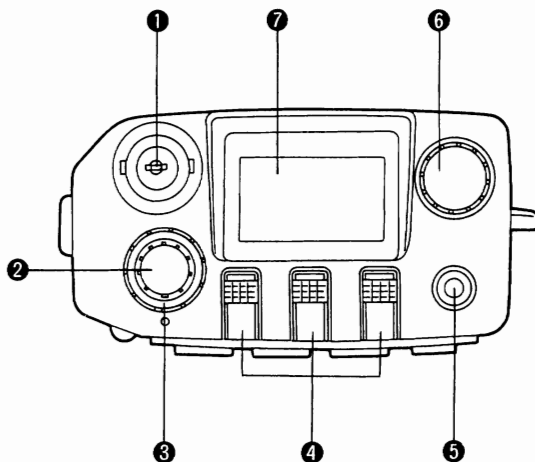
①バッテリーケース
②アンテナ
③ハンドストラップ
● 取扱説明書
● 保証書
● 操作カード

DJ-162SX及びDJ-462SXにはベルトクリップが付属されています。

(1)バッテリーケースの取り付け

本体の溝にバッテリーケースのフックをあわせて右にスライドさせます。

(2)電池のセッティング

バッテリーケースのつめを引き上げて左右に開きます。
市販の単三型乾電池を6本入れます。
長時間運用のためには、アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。

3 各部の名称と機能

3-1 上面操作部

❶アンテナコネクター

付属のアンテナを接続するためのコネクターです。BNCコネクターを使用すれば、外部アンテナを接続できます。

❷電源/VOLツマミ

電源のON/OFFおよび音量調整のツマミです。右に回わすと電源が入り、さらに回わすと受信音が大きくなります。

❸SQL（スケルチ）ツマミ

無信号時の“ザー”という雑音を消去するツマミです。右に回わすと、“ザー”という音が消え左に回わすと“ザー”という音がします。

❹UP/DOWNキー

周波数、メモリーNO.をUPするキーです。FUNCキーを押しながら押すとDOWNします。

❺SP端子

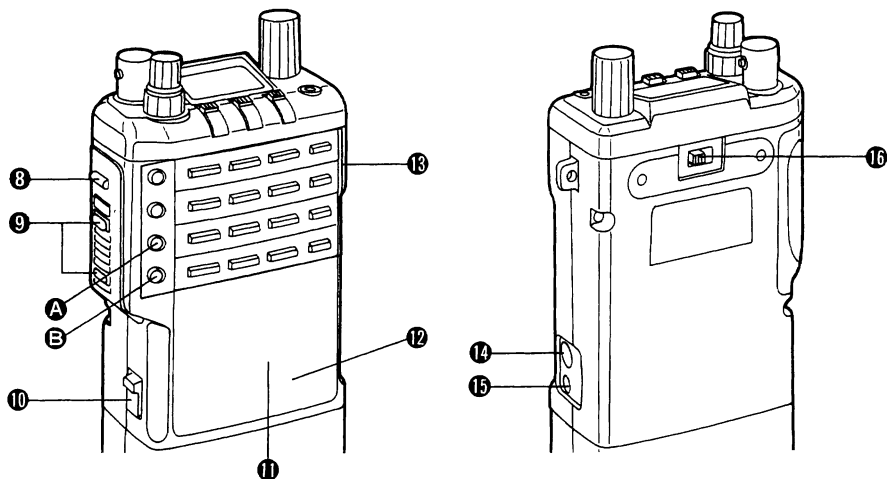
当社オプションのスピーカプラグ接続端子です。

❻ダイヤルツマミ

運用周波数の設定およびメモリーチャンネルの切換えを行ないます。

❼LCD表示部

各種機能の動作を表示します。

3-2 前後面、側面操作部

❽ファンクションキー	このキーと、他のキーを組み合わせて使用することにより、いろいろな機能を呼び出すことができます。
❾PTTキー（2ヵ所）	送信と受信を切り換えるスイッチです。 このキーを押している間は送信状態となります。
❿バッテリーリリースノブ	電池の交換など、バッテリーケースを取り外す時に使用します。このノブを上側に押しながらバッテリーケースを左にスライドさせると取り外せます。
⓫スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。
⓬マイクロホン	コンデンサーマイクロホンが内蔵されています。
⓭キーボード	このキーボードにより、各種動作を行います。 ⒶSQL OFFキー このキーを押している間だけ、SQLツマミの位置にかかわらず、SQLツマミを左に回し切った時と同じ動作になります。 ⒷLAMPキー 1回押すと、約5秒間点灯します。 FUNC キーを押しながら押すと、常灯になります。

⑭DC IN

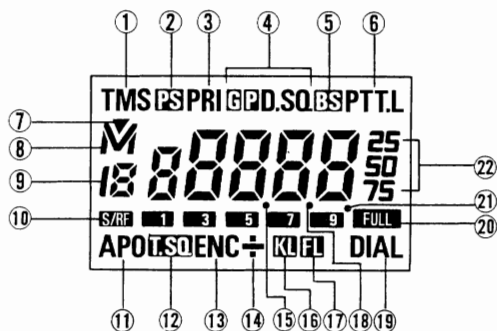
13.8Vの外部電源接続端子です。
当社オプションシガライターケーブル（EDC-13、又はEDC-16又はEDC-26)を必ず使用して下さい。
シガライターケーブルは、使用する電源のノイズの大小によって選択して下さい。

⑮MIC端子

当社オプション イヤホンマイク(EME-4)、プチ型スピーカマイク（EMS-2)、ヘッドセット（EME-10）の各マイクプラグ接続端子です。

⑯H/Lスイッチ

送信出力の切り換えスイッチです。
左にするとハイパワーになり、右にするとローパワーになります。

3-3 LCD表示部

①TMS表示

消灯時ビジースキャン、点灯時タイマースキャンを表わします。

②PS表示

プログラムスキャン動作中点灯します。

③PRI表示

プライオリティ動作中点灯します。

④DSQ運用表示

DSQ運用状態を表示します。

⑤BS表示

バッテリーセーブ動作中点灯します。

⑥PTT.L表示

PTTキーロック状態を表わします。

⑦スキップ表示

メモリースキャン動作中に、スキップされるメモリーである事を表わします。

⑧メモリー/VFO表示	メモリーモード時「M」VFOモード時「V」を表示します。
⑨メモリーNO.表示	メモリーNO.を表示します。
⑩S/RF表示	スケルチが開いている時に点灯します。
⑪APO表示	オートパワーオフ設定中に点灯します。
⑫T.SQ表示	トーンスケルチ設定中に点灯します。
⑬ENC表示	トーンエンコーダ設定中に点灯します。
⑭シフト方向表示	送信シフト方向を設定時、「+」か「−」を表示します。
⑮周波数デシマルポイント表示	送受信周波数、オフセット周波数を表示している時のMHzデシマルポイントです。 スキャン中点滅します。
⑯KL表示	キーロック状態を表わします。
⑰FL表示	周波数ロック状態を表わします。
⑱トーン周波数デシマルポイント表示	トーン周波数を表示している時のHzデシマルポイントです。
⑲DIAL表示	DIAL NO.がメモリーされていることを表わします。
⑳S/RFメーター表示	受信時は、信号の強さを示すSメーターとして、送信時は、送信出力の強さを示すRFメーターとして働きます。
㉑UL表示	表示周波数がUNLOCKの時に点灯します。
㉒周波数表示	送受信周波数、オフセット周波数、トーン周波数、チャンネルステップ、DSQコード、DIAL NO.を表示します。

3-4 キー操作一覧

操作キー	ファンクションキーを押さない時	ファンクションキーを押しながらの時
V/M M	VFO周波数とメモリー周波数の切り替え	ダイヤルチェンジ動作 周波数とメモリーNo.の切り替え
PRI MS PS	プライオリティ動作	メモリースキャン・プログラムスキャン動作
SQL OFF BS	スケルチオフ動作	バッテリーセーブ動作ON/OFF
LAMP	ランプ5秒点灯 ON/OFF	ランプ常時点灯 ON/OFF
⇕ M	メモリーNO.UP動作 (メモリーモード時メモリースキャン)	メモリーNO.DOWN動作 (メモリーモード時メモリースキャン)
⇕MHz	1MHz UP動作 (1MHzスキャン)	1MHz DOWN動作(1MHzスキャン)
⇕100kHz	100kHz UP動作 (100kHzスキャン)	100kHz DOWN動作 (100kHzスキャン)
1 +/−	数字1の入力	シフト方向+/−の設定
2 OFF SET	数字2の入力	オフセット周波数の設定
3 REV	数字3の入力	リバース動作
4 MW	数字4の入力	VFO周波数をメモリーに書き込む動作 メモリー、CALLの周波数ロック動作
5 M.SKIP	数字5の入力	メモリースキャン時のスキップ動作のON/OFF
6 STEP	数字6の入力	チャンネルステップ周波数の設定
7 BEEP	数字7の入力	ビープ音のON/OFF
8 TMS	数字8の入力	ビジースキャンとタイマースキャンの切り替え
9 APO	数字9の入力	オートパワーオフ動作のON/OFF
0 ALM G P DSQ	数字0の入力(K.L、F L動作中はアラーム音のストップ)	DSQのモード設定
△ # TSQ SET	チャンネルステップUP動作 (ステップスキャン)	トーン周波数の設定
▽ * DSQ SET	チャンネルステップDOWN動作 (ステップスキャン)	DSQのコード設定
CALL A DIAL M	CALL周波数の呼び出し	DIAL NO.の設定
B K.L、F.L	——	キーロック、周波数ロック動作設定
C PTT・L	数字キーによる周波数設定の解除動作	送信禁止動作のON/OFF
DIAL CH D ENC/TSQ	DIAL NO.の表示動作	トーンエンコーダー/トーンスケルチ動作設定
PTT	送信動作	オートダイアラー動作
ダイヤル	周波数かメモリーNO.のUP/DOWN動作	周波数1MHzのUP/DOWN動作
ボリュームツマミ	電源ON/OFF	リセット動作

4 運用方法（基本編）

4-1 周波数の設定の仕方

出荷時及びリセット後チャンネルステップは10kHzに設定されています。

(1) ダイヤル による方法

①右に回わすとチャンネルステップ分UPします。
②左に回わすとチャンネルステップ分DOWNします。
③ FUNC キーを押しながら回すと、1MHzステップでUP/DOWNします。

(2)UP/DOWNキーによる方法

チャンネルステップ

①前面操作部の ▲# キーでチャンネルステップ分UPします。
②前面操作部の ▼* キーでチャンネルステップ分DOWNします。

100kHzステップ

①LCDパネルの前の右端 100kHz キーで100kHz UPします。
② FUNC キーを押しながら、100kHz キーを押すと100kHz DOWNします。

1MHzステップ

①LCDパネルの前の中央 MHz キーで1MHz UPします。
② FUNC キーを押しながら MHz キーを押すと1MHz DOWNします。

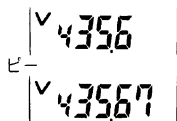
注意

UP/DOWNキーを押しつづけるとリピートになります。**リピート開始後3秒以内**に手を離すと、スキャンが始まります。スキャンについては、『4-7スキャンの運用方法』を参照して下さい。
(1)、(2)ともに、500kHz、1MHz通過時にビープ音が鳴ります。

(3)キーボードによる方法

数字キー 0 ～ 9 を用いて周波数を設定します。
〈DJ-162SX、DJ-160SX〉144.000～145.995MHz
〈DJ-462SX、DJ-460SX〉430.000～439.995MHz
上記、周波数範囲内となる様に設定して下さい。

（設定例）

表示	操作
4 .	①100MHz台を入力します。
43 .	②10MHz台を入力します。
435.	③1MHz台を入力します。

④100kHz台を入力します。

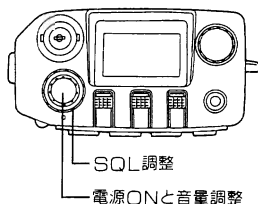
⑤10kHz台を入力します。
この時、ピー音が鳴り、設定が完了します。

注意

チャンネルステップによっては、1kHz台の入力が必要なもの、10kHz台で入力を受け付けないものがあります。(『5-2チャンネルステップの設定』)

入力途中に入力をキャンセルする

□c キーを押すと、元の周波数が表示されます。
PTT キーを押してもキャンセルできます。

4-2 受信の仕方

①電源ONと音量調整
VOL ツマミを右に回して電源を入れます。音量は、右方向に回していくと大きくなります。適当な音量にセットします。

②スケルチの調整
SQL ツマミをゆっくりと右に回して行き、“ザー”という雑音が消える位置にセットします。

③周波数の設定をします。
『4-1周波数の設定の仕方』を参照して下さい。

セットした周波数で信号を受信すると「S/RF」が点灯しスピーカーより相手局の音声が聞こえてきます。

4-3 送信の仕方

(1)送信の手順

①周波数の設定をします。
『4-1周波数の設定の仕方』を参照して下さい。

② PTT キーを押し送信状態にします。

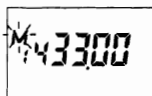
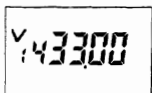
③ PTT キーを押しながら本体前面部に向って普通の大きさの声で話して下さい。

④ PTT キーを離すことによって送信終了となり、受信状態に戻ります。

(2)送信出力の切り換え方

本体裏面の H/L スイッチを、

左にセットするとHIGHパワー出力になります。

右にセットするとLOWパワー出力になります。

4-4 VFOモード/メモリーモード

VFOモードとは、1つのVFO周波数でなり、周波数各機能が設定でき、その状態を維持/運用するモードです。メモリーモードとは、メモリーチャンネル0〜19を呼び出し、運用するモードです。

メモリーモード

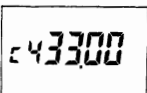
VFOモード

①VFOモードで V/M○ キーを押すと、メモリーモードになります。「M」が点滅か点灯します。

②メモリーモードで V/M○ キーを押すと、VFOモードになります。「V」が点灯します。

③CALLモードで V/M○ キーを押すと、元のVFOかメモリーのモードに戻ります。

4-5 CALLチャンネルの運用方法

(1)CALLチャンネルの呼び出し方

① CALL A キーを押すとCALLチャンネルが呼び出され、メモリーナンバーの表示が**「C」点灯**に変わります。

②再度 CALL A キーを押すか、 V/M○ キーを押すと、元のVFOまたはメモリーモードに戻ります。

(2)CALLチャンネルの周波数の書き換え方

出荷時及びリセット後、CALLチャンネルには、下記周波数が設定されています。
〈DJ-162SX、DJ-160SX〉145.00MHz
〈DJ-462SX、DJ-460SX〉433.00MHz

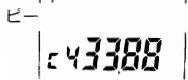
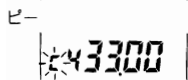
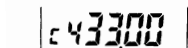
① CALL A キーでCALLチャンネルを呼び出します。

ピー

② FUNC キーを押しながら 4 MW キーを押します。ピー音が鳴り**「C」点灯が点滅に**変わります。

③周波数の設定を行ないます。

ピー

④再度 FUNC キーを押しながら 4 MW キーを押します。ピー音が鳴り**「C」点滅が点灯に**変わり、書き込み完了です。

4-6 メモリーの運用方法

本機のメモリーチャンネルは、0～19の20チャンネルあります。

出荷時及びリセット後、全メモリーチャンネルに下記周波数が設定されています。

〈DJ-162SX、DJ-160SX〉145.00MHz
〈DJ-462SX、DJ-460SX〉433.00MHz

(1)メモリーチャンネルの呼び出し方

① V/M○ キーでメモリーモードにします。「V」の点灯が**「M」の点滅か点灯**に変わります。

② ダイヤル を回すと、メモリーチャンネルが切り換わります。

③ ▲M キーを押すと、メモリーチャンネルがUP方向に切り換わります。

④ FUNC キーを押しながら ▲M キーを押すと、メモリーチャンネルがDOWN方向に切り換わります。

注意

▲M キーを押しつづけるとリピートになります。
リピート開始後3秒以内に手を離すとスキャンが始まります。スキャンについては、『4-7スキャンの運用方法』を参照して下さい。

(2)メモリーチャンネル周波数の書き込み方

① V/M○ キーでメモリーモードにします。

② ダイヤル 、▲M キーを使って希望のメモリーチャンネルをセットします。「M」が点滅している時には、次の操作は④からです。

③ FUNC キーを押しながら 4/MW キーを押します。ピー音が鳴り、**「M」点灯が点滅**に変わります。

④周波数の設定を行ないます。

⑤ FUNC キーを押しながら 4/MW キーを押します。ピー音が鳴り、**「M」点滅が点灯**に変わり、書き込み完了です。

(3)VFO周波数のメモリーチャンネルへの書き込み方

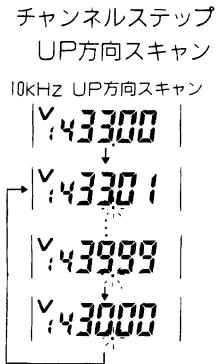
① V/M○ キーでVFOモードにします。
「M」の点滅か点灯が「V」の点灯に変わります。

②周波数の設定を行ないます。

③ ▲M キーを使って希望のメモリーチャンネルをセットします。

④ FUNC キーを押しながら 4/MW キーを押します。ピー音が鳴り、書き込み完了です。

4-7 スキャンの運用方法

(1)バンドスキャン操作

バンド内をスキャンします。
チャンネルステップ、100kHz、1MHzのステップ単位で変化できます。
500kHz、1MHzを通過時、ビープ音が鳴ります。

チャンネルステップ
UP方向スキャン
10kHz UP方向スキャン
V:43300
V:43301
V:43999
V:43000

① ▲# キーを押します。
②**リピートが始まって3秒以内**にキーを離します。(それ以上押していると、スキャンは始まりません。) デシマルポイントが点滅し、スキャンが始まります。
③スキャン中に信号を受信すると、その周波数でスキャンが停止します。
④スキャン停止時、次の周波数へ進めるには、[ダイヤル]を右方向へ1クリック回します。
左方向へ回すと、DOWN方向のスキャンに変わります。
⑤再度 ▲# キーを押すと、スキャンは解除されます。
その他のUP/DOWNキー、V/M、PTT キーでも解除できます。

DOWN方向スキャン

▼* キーにより動作します。
操作方法は、②~⑤と同様です。

100kHzステップ
UP方向スキャン

100kHz キーにより動作します。
操作方法は、②~⑤と同様です。

DOWN方向スキャン

FUNC キーを押しながら 100kHz キーを押すことで動作します。操作方法は、②~⑤と同様です。

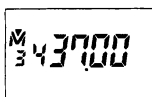
1MHzステップ
UP方向スキャン

MHz キーにより動作します。
操作方法は、②~⑤と同様です。

DOWN方向スキャン

FUNC キーを押しながら MHz キーを押すことで動作します。操作方法は、②~⑤と同様です。

⑵メモリースキャン操作

メモリーUP方向スキャン

① V/M キーにより、メモリーモードにします。

② ▲M キーを押します。**リピートが始まって3秒以内**に、キーを離します。
(それ以上押しているとスキャンは始まりません。)
デシマルポイントが点滅し、スキャンが始まります。

③スキャン中に信号を受信すると、そのメモリーチャンネルでスキャンが停止します。

④スキャン停止時、次のチャンネルへ進めるには、［ダイヤル］を右へ1クリック回します。
左方向へ回すと、DOWN方向のスキャンに変わります。

⑤再度 ▲M キーを押すとスキャンは解除されます。
その他のUP/DOWNキー、V/M キー、PTT キーでも解除できます。

⑶メモリースキップ設定

① V/M キーにより、メモリーモードにします。

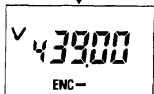
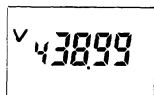
②［ダイヤル］、▲M キーを使ってスキャンに不要なメモリーチャンネルを呼び出します。

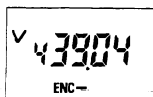
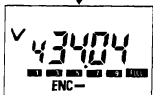
③ FUNC キーを押しながら 5 M.SKIP キーを押します。「M」の表示の上についた「▼」が、スキップするメモリーチャンネルであることを示します。
同操作で解除できます。

メモリースキャン時、スキップ指定されたメモリーチャンネルは、無視されます。

4-8 レピータの運用について
〈DJ-462SX、DJ-460SX〉

レピータとは、遠く離れた局どうしの交信を可能にする自動無線中継局です。
受信と送信の周波数が5MHz離れています。また、信号に88.5Hzのトーンが付加されている場合に動作します。

オートレピータセット

周波数表示が439MHz台になると、自動的に−5MHzシフト、88.5Hzトーンが設定されます。
(オフセット周波数、トーン周波数ともに初期値です。)

運用方法

①希望するレピータの周波数を選択します。
②「ENC」「−」表示の確認をします。
③他局がレピータを使用していないことを確認してから、PTTキーを押して約2秒間送信します。
④電波がレピータ局に届けば、レピータ装置が動作して、レピータ局のコールサインを示すモールス信号または音声によるID信号が聞こえます。
⑤自局の電波でレピータ局が作動している事を確認の上、通常の交信を行なって下さい。

5 運用方法（機能編）

5-1 M点滅とM点灯 C点滅とC点灯について

メモリーモード、CALLモードにはそれぞれ点滅モードと点灯モードがあります。

点灯モード

メモリーモード

M 1 433.00

CALLモード

C 433.00

表示周波数が、メモリーチャンネル（CALLチャンネル）に書き込まれていて、かつ、その周波数の変更が不可能な（ロックされている）状態を示します。FUNC キーを押しながら 4/MW キーを押す操作で、点滅モードにかわります。

点滅モード

メモリーモード

M 1 433.00

CALLモード

C 433.00

メモリーチャンネル（CALLチャンネル）に書き込まれている周波数を、一時変更できるモードです。

点滅モードでは、VFO同様にバンドスキャン動作ができます。

一時変更後にメモリーチャンネルの変更をしたり、モードを変えたりすると、元の内容に戻ります。

FUNC キーを押しながら 4/MW キーを押す操作で、変更した周波数を書き込む事ができます。この時、点灯モードにかわります。

メモリー内容

メモリーCH0～19及び、CALLチャンネルには、下記の内容をメモリーすることができます。

①周波数
②シフト方向　－、＋
③トーン設定　ENC/TSQ
④DSQ設定
⑤トーン周波数
⑥オフセット周波数（メモリーCH15～19、CALL CH）

メモリー間のデータコピーについて

メモリーモードで、FUNC キーを押しながら [ダイヤル] を回すと、メモリーNO.のみ変化し、表示周波数等は変化しません。

この時、4/MW キーを押すと、表示のメモリーNO.に表示周波数等をコピーすることができます。

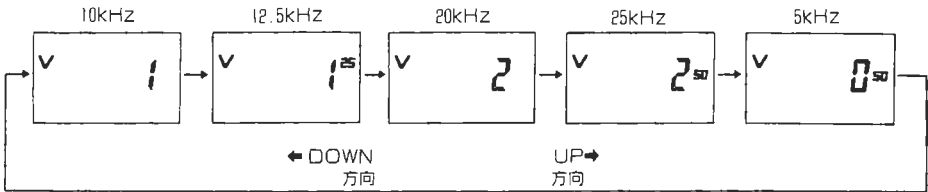
5-2 チャンネルステップの設定

(1)設定の仕方

① FUNC キーを押しながら 6/STEP キーを押します。

（注意）

以下 FUNC キーは離さないで下さい。

② 6/STEP キーを続けて押すと、下記の様にチャンネルステップが切り換わります。希望のステップにセットして下さい。

③ ▲# キーでUP方向に切り換わります。

④ ▼* キーで、DOWN方向に切り換わります。

⑤ ダイヤル で右に回すとUP方向、左に回すとDOWN方向に切り換わります。

⑥ FUNC キーを離すと、設定モードが解除されます。

(2)チャンネルステップの運用

ダイヤル 、▲# 、▼* による周波数変更や、スキャンは設定されたステップで行なわれます。
キーボードによる周波数設定においても同様です。
以下10kHzステップ以外の場合を説明します。

キーボードによる周波数設定

5kHz	1kHz台まで入力が必要です。1kHz台は、0、5 のみ有効です。
12.5kHz	10kHz台で入力を完了します。10kHz台の 4、9 の入力は無効です。
20kHz	10kHz台で入力を完了します。10kHz台は、2の倍数のみ有効です。
25kHz	10kHz台で入力を完了します。10kHz台は、0、2、5、7 のみ有効です。

5-3 スキャン機能の運用方法

(1)スキャン方式について

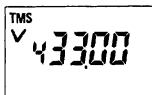
ビジースキャン方式

信号を受信している間、スキャン動作が止まります。
信号が2秒間なくなると、再びスキャン動作を開始します。
(出荷時及びリセット後は、ビジースキャン方式に設定されています)

タイマースキャン方式

信号を受信すると、スキャン動作が止まります。
信号を受信していても、5秒経過すると再びスキャン動作を開始します。
また、信号がなくなると、スキャン動作を再開します。

(2)スキャン方式の切り換え方

タイマースキャン

① FUNC キーを押しながら 8/TMS キーを押します。
LCD表示部に「TMS」と点灯され、以降のスキャンは、タイマースキャン方式になります。

②再度、FUNC キーを押しながら 8/TMS キーを押します。
LCD表示部の「TMS」が消え、以降のスキャンは、ビジースキャン方式になります。

スキャン方式の切り換えは、スキャン動作中も可能です。

(3)バンドスキャン動作

各UP/DOWNキーによりチャンネルステップ、100kHz、1MHzの単位で変化させる事ができます。
バンド内を全てスキャンします。
操作は『基礎編4-7スキャンの運用方法』を参照して下さい。

(4)プログラムスキャン動作

ビジープログラムスキャン

タイマープログラムスキャン

本機では、VFO周波数とメモリーチャンネル0の周波数の間をスキャンさせる事ができます。
500kHz、1MHz通過時にビープ音が鳴ります。

① V/M キーにより、メモリーモードにします。
② メモリーチャンネル0に、スキャンの上限か、下限のエッジ周波数を書き込みます。
③ V/M キーにより、VFOモードにします。
④ VFO周波数に、スキャンの上限か下限のエッジ周波数を設定します。
⑤ FUNC キーを押しながら PRI キーを押します。LCD表示部に「PS」が点灯し、デシマルポイントが点滅してVFO周波数とメモリー0とのプログラムスキャンが開始します。

注意

この時、両方の周波数が一致していると、「PS」は点灯せずにデシマルポイントが点滅してバンドスキャンを開始します。

(5)メモリースキャン動作

M キーにより、メモリースキャンを開始できます。
操作は、『基礎編4-7スキャンの運用方法』を参照して下さい。
また、メモリーモードで FUNC キーを押しながら PRI キーを押してもメモリースキャンを開始します。
この時、「PS」は点灯せず、デシマルポイントは点滅します。

(6)スキャン動作中の操作

スキャン方向を切り換える 次チャンネルへ移る

ダイヤル を右に回すと、UP方向に、左に回すとDOWN方向に1チャンネル移動し、スキャン方向を切り換えることができます。

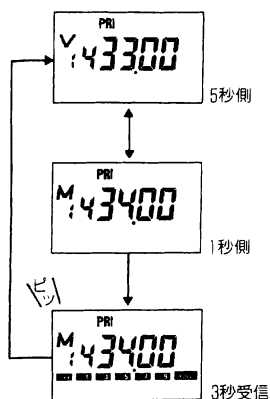
スキャン動作を解除する

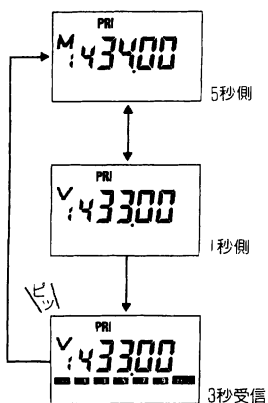
M、MHz、100kHz、▲#、▼* のキーを押すと、解除します。
V/M、PTT キーでも、解除できます。

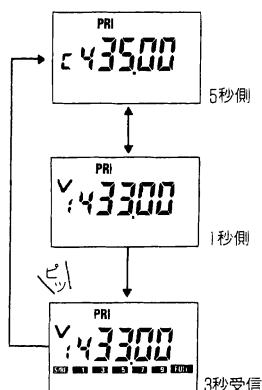
タイマースキャン/ビジースキャンの切り換えをする

FUNC キーを押しながら 8/TMS を押します。

5-4 プライオリティ機能の運用方法

(1)VFOプライオリティ

① V/M キーでメモリーモードにします。
② ダイヤル、▲▼M キーによってメモリーNO.を設定します。
③ V/M キーでVFOモードにし、VFO周波数の設定を行ないます。
④ PRI キーを押します。LCD表示部に「PRI」が点灯します。
VFO周波数 5秒受信
メモリー周波数 1秒受信
この動作を繰り返します。
⑤メモリー側に信号が入るとピッ音が鳴り、3秒間受信します。
⑥再度VFOモードで PRI キーを押すと、プライオリティ動作は解除されます。
「PRI」の点灯が消えます。

(2)メモリープライオリティ

① V/M キーでVFOモードにし、VFO周波数の設定を行ないます。
② V/M キーでメモリーモードにします。
③ ダイヤル、▲▼M キーによってメモリーNO.の設定をします。
④ PRI キーを押します。LCD表示部に「PRI」が点灯します。
メモリー周波数 5秒受信
VFO周波数 1秒受信
この動作を繰り返します。
⑤VFO側に信号が入るとピッ音が鳴り、3秒間受信します。
⑥再度メモリーモードで PRI キーを押すと、プライオリティ動作は解除されます。
「PRI」の点灯が消えます。

⑶CALLプライオリティ

① V/M○ キーで、VFOモードかメモリーモードにします。
② CALL A キーで、CALLモードにします。
③ PRI○ キーを押します。LCD表示部に「PRI」が点灯します。
CALL周波数 5秒受信
VFO周波数（メモリー周波数） 1秒受信
この動作を繰り返します。
④VFO（メモリー）側に信号が入るとピッ音が鳴り、3秒間受信します。
⑤再度、CALLモードで、PRI○ キーを押すとプライオリティは解除されます。「PRI」の点灯が消えます。

⑷プライオリティ動作中の操作

5秒受信側での送信

PTT キーを押すと表示周波数で送信できます。
PTT キーを離して5秒後に、プライオリティ動作が再開します。

1秒受信側での送信

PTT キーを押すと表示周波数で送信されると同時に、プライオリティ動作が解除されます。

5秒受信側の周波数変更
メモリーNO.変更

▲▼M、▲▼MHz、▲▼100kHz、▲#、▼*、ダイヤル により、変更可能です。

プライオリティ動作の解除

5秒受信側で、PRI○、V/M○ キーを押すと解除されます。
1秒受信側で、PTT キーを押すと解除されます。

5-5 スキャンとプライオリティの同時動作

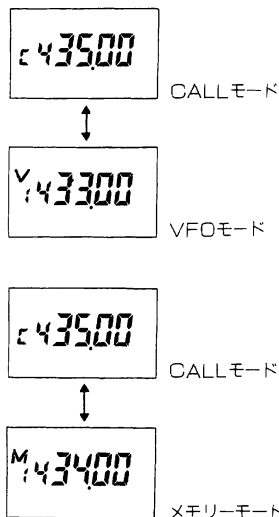
(1)バンドスキャンと VFOプライオリティ	VFOモードでのバンドスキャンと、プライオリティの同時動作ができます。
バンドスキャン中の操作	PRI○ キーを押します。 プライオリティ（VFO←→メモリー）が開始します。
VFOプライオリティ中の操作	5秒受信のVFOで、UP/DOWNキーを押して、リピート開始3秒以内に手を離すと、バンドスキャンが開始します。
(2)メモリースキャンと メモリープライオリティ	メモリーモードでのメモリースキャンとプライオリティの同時動作ができます。
メモリースキャン中の操作	PRI○ キーを押します。 プライオリティ（メモリー←→VFO）が開始します。
メモリープライオリティ中の操作	5秒受信のメモリーで、□M キーを押して、リピート開始3秒以内に手を離すとメモリースキャンが開始します。

(3)同時動作の解除

プライオリティの解除	5秒受信側で、PRI○ キーを押すとプライオリティのみ解除されます。
スキャンの解除	5秒受信側でUP/DOWNキーを押すと、スキャンのみ解除されます。 PTT キーを押すと、スキャンのみ解除されます。
プライオリティとスキャン両方の解除	5秒受信側で V/M○ キーを押すと、プライオリティとスキャンの両方が解除されます。 1秒受信側で PTT キーを押すと、プライオリティとスキャンの両方が解除されます。

5-6 デュアルワッチ機能の運用方法

CALL周波数と、VFO周波数または、メモリー周波数を3秒の交互受信にできます。

(1)デュアルワッチの操作方法

① V/M キーによって、VFOモードかメモリーモードにします。
待ち受けの周波数を設定します。

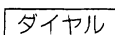
② CALL キーによって、CALLモードにします。
CALL周波数の設定をします。

③ FUNC キーを押しながら PRI キーを押します。
CALL周波数 3秒受信
VFO周波数（メモリー周波数） 3秒受信
この動作を繰り返します。

④ V/M キーを押すと解除されます。
解除は、CALLモードでも、VFOモード/メモリーモードでも可能です。

(2)デュアルワッチ動作中の操作

送信する

PTT キーを押すことで送信できます。
PTT キーを離して5秒後に、デュアルワッチを再開します。

周波数(VFOモード)
メモリーNO.(メモリーモード)
を変更する

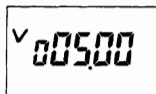
[ダイヤル] により、変更可能です。

デュアルワッチ動作の解除

V/M キーを押すと解除されます。
FUNC キーを押しながら PRI キーを押しても解除できます。

5-7 オフセット周波数の設定

レピータ運用時(デュープレックス運用)の、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数と呼びます。

(1)オフセット周波数の設定モード

FUNC キーを押しながら OFF SET キーを押します。
LCD表示部に、オフセット周波数が表示されます。
出荷時及びリセット後

DJ-162SX、DJ-160SX 600kHz
DJ-462SX、DJ-460SX 5MHz

が設定されています。

(2)オフセット周波数の変更の仕方

オフセット周波数は、最小ステップ100kHzで変更できます。
範囲は、0〜99.9MHzです。

100kHz UP

① 100kHzキーを押します。
② ダイヤル を右へ1クリック回します。

100kHz DOWN

① FUNC キーを押しながら 100kHz キーを押します。
② ダイヤル を左へ1クリック回します。

1MHz UP

① MHzキーを押します。
② FUNC キーを押しながら ダイヤル を右へ1クリック回します。

1MHz DOWN

① FUNC キーを押しながら MHzキーを押します。
② FUNC キーを押しながら ダイヤル を左へ1クリック回します。

(3)オフセット周波数の設定モードからの解除

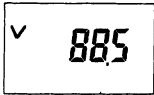
① V/M キーを押すと、解除されます。
② FUNC キーを押しながら OFF SET キーを押すと解除されます。

注意

オフセット周波数は、VFOとメモリーNO.0〜14が共通になっていますので、VFOモードでオフセット周波数を変更すると、メモリーNO.0〜14のオフセット周波数も変わります。

5-8　トーン周波数の設定

V 88.5

38波のトーン周波数を切り換える事ができます。

① FUNC キーを押しながら ▲# TSQ SET キーを押します。

（注意）
以下、FUNC キーは離さないで下さい。

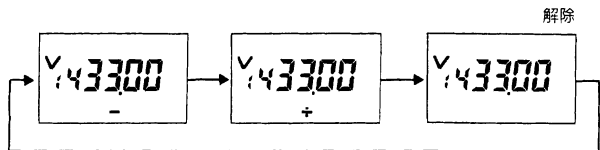
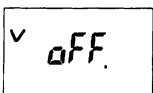
② ▲# キーを押すと、トーン周波数がUPします。
③ ▼* キーを押すと、トーン周波数がDOWNします。
④ ［ダイヤル］を右に回すとUP、左に回すとDOWNします。
⑤ FUNC キーを離すと、設定モードが解除されます。

トーン周波数一覧表（単位：Hz）

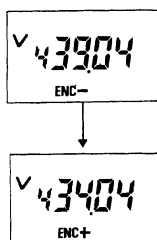
67.0	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5
85.4	88.5	91.5	94.8	97.4	100.0
103.5	107.2	110.9	114.8	118.8	123.0
127.3	131.8	136.5	141.3	146.2	151.4
156.7	162.2	167.9	173.8	179.9	186.2
192.8	203.5	210.7	218.1	225.7	233.6
241.8	250.3				

5-9　シフト方向の切り換え

受信周波数に対して送信周波数を、オフセット周波数分だけ＋または−方向にシフトさせる機能です。

FUNC キーを押しながら 1 +/− キーを押す毎にシフト方向が切り換わります。

オフバンドについて

送信時にシフトさせた場合、周波数範囲を超えることがあります。その時は、LCD表示部に「oFF.」と表示され、送信されません。

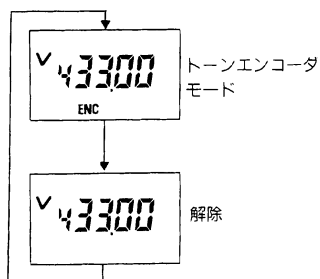
5-10 リバース機能

レピータ運用時に送信周波数と受信周波数を入れ換えて、相手局と直接交信できるかどうかのチェックをすることができます。

FUNC キーを押しながら、3 REV キーを押します。送受信周波数が入れ換わり、シフト方向が逆になります。

注意

バンドエッジを越える場合には、リバースにはならず、ブー音が鳴ります。

5-11 トーンエンコーダ機能

レピータ運用時に必要なトーンエンコーダをマニュアルで設定できます。

① FUNC キーを押しながら ENC/TSQ D キーを押すと「ENC」表示が点灯します。

②希望のトーン周波数を設定します。

③ PTT キーを押すと、トーンを付加して送信されます。

④ FUNC キーを押しながら ENC/TSQ D キーを押すと、「ENC」表示が消灯し、トーンエンコーダが解除されます。

⑤トーンスケルチユニットEJ-6U（オプション）を装着した時には、再度 FUNC キーを押しながら ENC/TSQ D キーを押すと解除できます。

5-12 トーンスケルチ機能

トーンスケルチユニットEJ-6U(オプション)を装着した時のみ有効です。
トーンスケルチとは、自局と相手局のトーン周波数が一致した時だけ受信させる機能です。

トーンスケルチの運用

① FUNC キーを押しながら ENC/TSQ キーを押すと、下記の様にトーン設定が切り換わります。

トーンスケルチモード「TSQ ENC」の設定にします。

②希望のトーン周波数を設定します。

③以降、トーン周波数一致の場合だけ受信し、送信時には、トーンを付加して送信することになります。

5-13 DSQ機能の運用方法 I (基本編)

DSQとはDTMFスケルチの事で、ページャー機能/コードスケルチ機能の総称です。

(1)ページャー機能について

グループ呼び出し

ある特定のグループ全員を一斉に呼び出したい時に利用できる機能です。
同一コードをやりとりします。

グループ内プライベート呼び出し

ある特定のグループ内の1人を呼び出したい時に利用できる機能です。

(2)コードスケルチ機能について

3桁のコードを送出することで、トーンスケルチと同じような運用ができます。

⑶DSQコードについて

グループコード3桁

ページャー機能時のグループコードとコードスケルチ機能時のコードを兼用しています。

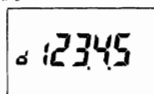
自局コード1桁

自局のプライベートコードです。

相手局コード1桁

グループ内プライベート呼び出しの場合に、呼び出したい相手局コードを入力します。
ページャー機能で、受信した時に、送られてきた相手局コードを自動的にメモリーします。

⑷DSQコードの設定

例

グループ 自局 相手局

以下このコードで説明します。

① FUNC キーを押しながら ▼ ＊ DSQ SET キーを押します。
デシマルポイントで区切られた順に、

グループコード　3桁
自局コード　1桁
相手局コード　1桁

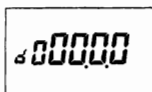
が表示されます。

②コードは、グループコードから、順に入力していきます。
入力できるコードは、以下となっています。

[0]～[9]、[A]～[D]、[＊]、[#]
[＊] 入力時表示「H」、[#] 入力時表示「d」

ただし、[#] には、特別な意味があります。
(『5-14拡張編』を参照して下さい。)

入力コードのクリアー

s00000

FUNC キーを押しながら c キーを押します。
コードが0クリアーされます。

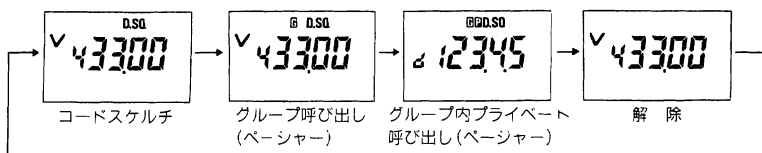
入力のキャンセル

再度 FUNC キーを押しながら ▼ ＊ DSQ SET キーを押します。
入力がキャンセルされ、前のコードが残ります。

入力の完了

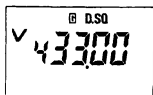
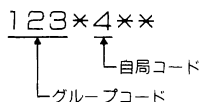
V/M ○ キーを押すと、ピー音が鳴り入力が完了します。

(5)DSQ設定の仕方

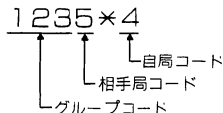
FUNCキーを押しながら 0 GPDSQキーを押すと下記の様に設定が切り換わります。

注意

グループ内プライベート呼び出し設定にすると、DSQコードが表示され、相手局コード1桁のみ入力可能となります。
V/M キー、PTTキーで周波数表示に戻ります。

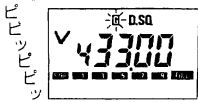
(6) ページャー機能

グループ呼び出しの方法〈送信〉

①グループコード、自局コードの設定を行ないます。
② FUNCキーを押しながら 0 GPDSQキーを押して、LCD表示部に、「G」と「DSQ」を点灯させます。
③ PTTキーを押して送信すると、自動的に、DTMF信号が送信されます。
送出されるコード形式は、以下の様になります。

(7) ページャー機能

グループ内プライベート呼び出しの方法〈送信〉

①グループコード、自局コード、相手局コードの設定を行ないます。
② FUNCキーを押しながら 0 GPDSQキーを押して、LCD表示部に「G」、「P」、「DSQ」を点灯させます。
③DSQコードが表示され、相手局コードのみ変更可能となります。
④ PTTキーを押して送信すると、自動的に、DTMF信号が送信されます。
送出されるコード形式は、以下の様になります。

(8) ページャー機能 受信側

①グループコード、自局コードの設定を行ないます。
②グループ呼び出し/グループ内プライベート呼び出しのいずれかの状態にしておきます。

《グループ呼び出し》

受信したDTMF信号が、グループコードと一致した場合「G」が点滅し、アラーム音が鳴り、グループ呼び出しである事を知らせます。

《グループ内プライベート呼び出し》

受信したDTMF信号が、グループコードと、自局コードの両方と一致した場合、
「G」「P」が点滅し、アラーム音が鳴り、グループ内プライベート呼び出しである事を知らせます。

交信の仕方

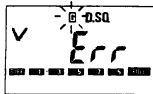
PTT キーを押して応答して下さい。
コードが、相手側に送られます。
受信中は、ページャー機能の設定をはずしても、交信可能です。

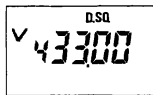
アラーム音と表示の点滅の解除の仕方

V/M キーを押して下さい。
アラーム音が止まり、点滅から点灯に変わります。

相手局コードの確認

FUNC キーを押しながら DSQ SET キーを押すと、送信してきた相手局のコードが右端1桁にメモリーされているのを確認できます。

“Err”表示

混信等で、相手局コードが受信されなかった場合にLCD表示部に“Err”の表示が出ます。
V/M キーで周波数表示に戻ります。
交信は可能です。

(9) コードスケルチ機能 の運用方法

①グループコードの設定を行ないます。
② FUNC キーを押しながら 0 GP DSQ キーを押して、LCD表示部に「DSQ」を点灯させます。

〈送信〉

PTT キーを押して送信すると、自動的にグループコード3桁が送信されます。

〈受信〉

受信したDTMF信号が、グループコード3桁と一致した場合、DSQが点滅し、交信可能となります。

⑽DSQ機能とDTMF マニュアル出力

DSQ機能を持たない当社DJ-500SXからDJ-160SX/460SXをアクセスできます。
ページャー、コードスケルチのデータ形式で、DTMFトーンを送信して下さい。
ただし、数字を押す間隔は、1.5秒以内として下さい。

⑾DSQ機能の注意事項

受信がとぎれた時

コードスケルチ/ページャーによって受信した場合には、受信がとぎれても1.5秒間は交信可能です。

PTT キーオンからコード送信までの時間

約450msです。

コードスケルチ コード送出時間

約300msです。

SQLツマミの調整

信号を受信していない時に、S/RFの表示が点灯しないよう SQL ツマミの調整をして下さい。S/RF点灯のままですとDSQ機能が正常に動作しなくなります。

DSQ受信待時の注意

DSQコード表示中又はDIAL NO.表示中には、DSQ動作をしないので、DSQ受信待時は、必ず周波数表示にしておいて下さい。

5-14 DSQ機能の運用方法II（拡張編）

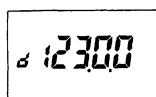
(1)プライベート呼び出し機能

ある特定の人を呼び出したい時に利用できるページャー機能です。
他社機とも対応しています。

DSQコードについて

プライベート呼び出し機能を動作させる為には、自局コード、相手局コードを各々3桁まで設定させる必要があります。

自局コード、相手局コードの設定の仕方

DIAL NO.設定モードで各々3桁まで設定できます。
DIALメモリー2のエリアと兼用になっています。

① d 123.0.0 グループコード設定

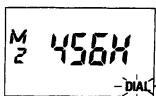
①グループコード3桁を設定します。(5-13 (4)DSQコードの設定)
② FUNC キーを押しながら DIAL M キーを押します。
DIAL NO.設定モードになります。

③ M2 H0HH DIAL DIALメモリー2

③ M キー、[ダイアル] でDIALメモリー2を表示させます。
DIALメモリー2には以下の様にメモリーされています。

0＊＊＊0＊＊

相手局コードエリア　自局コードエリア

④ M2 456H DIAL 相手局コード設定

M2 H789 DIAL 自局コード設定

④自局コード、相手局コードを設定します。

456＊789

相手局コード　自局コード

DIALメモリー入力方法は『5-15 DIAL機能の運用方法』を参照して下さい。

⑤ V/M キーを押して設定完了して下さい。
周波数表示に戻ります。

設定時の注意

a．LCD表示部に「[G]」や「[P]」が点滅/点灯している間はDIALメモリー2の設定はできませんので、必ず「[G]」、「[P]」を消灯して下さい。

b. DSQコードの設定時(5-13 (4)DSQコードの設定)
V/M○ キー、PTT キーを押して入力完了すると、自動的に相手局/自局コードの下位2桁に「✳」がメモリーされます。

c. DSQ設定時(5-13 (5)DSQ設定の仕方)グループ内プライベートを選び V/M○ キー、PTT キーを押して設定完了すると、自動的に相手局/自局コードの下位2桁に「✳」がメモリーされます。
FUNC キーを押しながら ▼ ✳ DSQ SET キーを押すと、相手局/自局コードは保持されます。

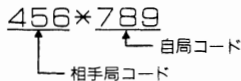
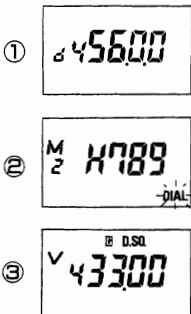
〈受信側〉

①自局コード3桁を設定します。
②グループ呼び出し/グループ内プライベート呼び出し、いずれかの状態にしておきます。

受信したDTMF信号が、自局コードと一致した場合、「P」が点滅し、アラーム音が鳴り、プライベート呼び出しである事を知らせます。

交信の仕方

PTT キーを押して応答して下さい。
コードが相手側に送られます。
受信中は、ページャー機能の設定をはずしても交信可能です。
「P」が点滅/点灯している間は、以下のコード形式で送出します。

〈送信側〉

①
②
③
①グループコード3桁のエリアに、相手局コード3桁を設定します。
②自局コード3桁を設定します。
③「G」と「DSQ」を点灯させて送信します。

⑵ワイルドカード機能

コードスケルチ、ページャーのグループ呼び出しにおいてワイルドカード機能が活用できます。
すなわち、グループコード番号のどれかを忘れたり、3桁全てがわからなかった場合でも、これを使うと受信したコードがグループコードとしてメモリーされます。

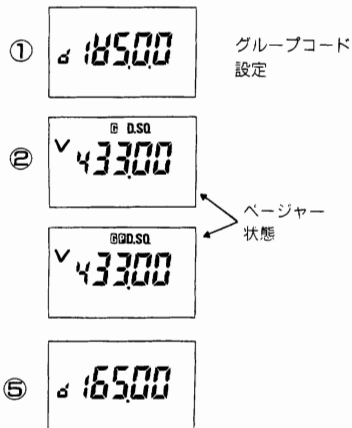
設定の仕方

ワイルドカード [#] を、グループコード3桁内に入力します。受信したDTMF信号と“ꟹ”の位置以外のコードが一致すれば、交信可能となります。
“ꟹ”の位置には、受信コードがメモリーされます。
ワイルドカードは、3桁全てにも設定可能です。

（運用例）

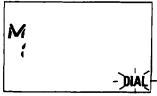
①: グループコード設定

②: ページャー状態

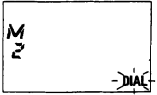
⑤

①グループコードを“1#5”と入力します。
②ページャー状態にします。
③受信したDTMF信号が、
105～195、1A5～1D5、1✻5、1#5
のいずれであっても交信可能となります。
ここでは、“165”を受信したとします。
④ [G] が点滅し、アラーム音が鳴り、グループ呼び出しである事を知らせます。

⑤DSQコード設定モードにすると、“165”がメモリーされているのがわかります。
⑥以後、相手局との交信ができます。

5-15 DIAL機能の運用方法

(1)DIAL NO.の設定

DIALメモリー1、2に最大16桁のコードを入力することができます。

① FUNC キーを押しながら DIAL M キーを押して下さい。
DIAL NO.設定モードになり、「DIAL」が点滅します。

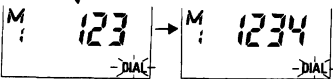
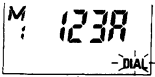
DIALメモリーNO.変更

②「M」の下の数字はDIALメモリーNO.を表わします。
M キーを押すと、メモリーNO.がUPします。
FUNC キーを押しながら M キーを押すとDOWNします。
ダイヤル を右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。

DIALメモリーは、1と2です。

コードの入力

③DIAL NO.は、先頭から順に入力します。
0 ~ 9 / A ~ D / ＊ / #
のいずれも入力できます。

④コードは、16桁まで入力でき、それ以上は入りません。

コードの修正

⑤修正したいコードの1つ前のコードを右端に持ってきます。
100 kHz キーは、DIAL NO.を1つ右シフトできます。
MHz キーは、DIAL NO.を1つ左シフトできます。

⑥正しいコードを入力します。
これで、修正は完了です。

コード入力クリアー

⑦ FUNC キーを押しながら C キーを押すと、入力していたコードが、オールクリアーされます。

コード入力完了

⑧ V/M キーを押すと、ピー音が鳴り入力完了です。

⑨1桁以上入力されていると、「DIAL」が点灯します。
周波数表示に戻ります。

⑩何も入力されていないと、「DIAL」は消灯します。
周波数表示に戻ります。

コード入力キャンセル

DIAL NO.が表示されている状態で、FUNC キーを押しながら DIAL M キーを押します。
周波数表示に戻り、1桁以上入力されていると、「DIAL」が消灯します。何も入力されていない時は、「DIAL」が点灯します。

⑵DTMF信号モニター機能

DIALメモリー3に、受信したDTMF信号を自動的にメモリーする機能です。
「DSQ」か「DIAL」を点灯させると、モニターを開始します。

「DIAL」の点灯

DIAL NO.を入力設定すると点灯します。
前述の『⑴DIAL NO.の設定』を参照して下さい。

「DSQ」の点灯

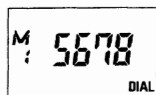
FUNC キーを押しながら 0 DSQ キーを押して、「DSQ」を点灯させます。

注意

この場合、DSQ機能も同時に動作します。
DIAL NO.、DSQコード表示中はモニター動作を行なわないので、必ず周波数表示でモニターして下さい。

⑶DIAL NO.の表示

DIALメモリー1、2、3を表示することができます。ここでは、コードの入力、修正はできません。

M 5678 DIAL

DIAL CH D キーを押します。
DIAL NO.表示モードになり「DIAL」が点灯します。

DIALメモリーNO.変更

① M キーで、メモリーNO.がUPします。
② FUNC キーを押しながら M キーを押すと、メモリーNO.がDOWNします。
③ ダイヤル を右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。

コードの右シフト

100kHz キーを押すと、1つ右シフトできます。

コードの左シフト

MHz キーを押すと、1つ左シフトできます。

コード表示からの解除

再度、DIAL CH D キーを押すと解除され、周波数表示に戻ります。V/M キー、PTT キーでも解除できます。

注意

解除されると、そのDIALメモリーに1桁以上メモリーされていると、「DIAL」が点灯し、何もメモリーされていないと消灯します。

(4)オートダイアラー機能

DIALメモリー1、2、3のいずれでもDIAL NO.を送信することができます。

操作方法

PTTキーで送信中に FUNC キーを押します。指定されたメモリーのDIAL NO.が送信されます。コードの間隔は、約100msです。

DSQ機能設定中

DSQ機能の設定中は、まずDSQコードが送信され、続いてDIAL NO.が送信されます。
DSQコード送信終了からオートダイアラー送信開始までは、約250msです。

(5)「DIAL」点灯/消灯切り換え

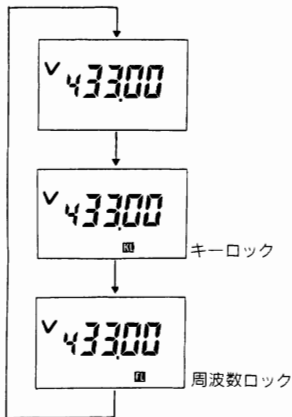
「DIAL」点灯→消灯

消費電流を少なくする為に、「DIAL」を消灯し、モニター機能を停止することができます。

①「DIAL」表示が点灯されていることを確認します。
② FUNC キーを押しながら A DIAL M キーを押して、DIAL NO.の設定モードにします。
③再度、FUNC キーを押しながら A DIAL M キーを押します。周波数表示に戻り、「DIAL」は消灯されています。

「DIAL」消灯→点灯

DIALメモリーに何も入力されていない場合は、「DIAL」は消灯しています。
この時、モニター機能を動作するには、上記②、③と同様の操作で、「DIAL」を点灯します。

5-16　周波数ロック機能

① FUNC キーを押しながら K.L F.L B キーを1回押します。

LCD表示部に「KL」が点灯し、**キーロック状態**になります。

ダイヤル と PTT 、SQL OFF 、LAMP は受け付け可能です。

アラーム音を 0 ALM キーで止める事ができます。

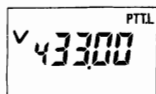
②再度、FUNC キーを押しながら K.L F.L B キーを1回押します。

LCD表示部に「FL」が点灯し、**周波数ロック状態**になります。

PTT 、SQL OFF 、LAMP は受け付け可能です。

アラーム音を 0 ALM キーで止める事ができます。

③もう1度、FUNC キーを押しながら K.L F.L B キーを1回押すと、ロック状態から解除されます。

5-17　PTTキーのロック機能

FUNC キーを押しながら PTT L C キーを1回押すと、LCD表示部に「PTT.L」が点灯します。PTTキーを押しても送信しなくなります。同操作で、ロックを解除できます。

5-18　ビープ音ON/OFF機能

FUNC キーを押しながら 7 BEEP キーを押します。

ビープ音のON/OFFを設定できます。

5-19　ランプ機能

5秒点灯

LAMP キーを押すと、ランプが点灯します。

無操作が5秒間続くと消灯します。

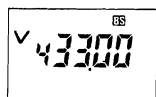
点灯中、LAMP キーを押すと消灯できます。

常時点灯

FUNC キーを押しながら LAMP キーを押すとランプが点灯します。点灯中、LAMP キーを押すと、消灯できます。

5-20　オートバッテリーセーブ機能

不要な電池の消耗を防ぐための機能です。
受信待ち受け時間　約300ms
バッテリーセーブ時間　約700ms

設定方法

FUNC キーを押しながら SQL OFF/BS キーを押します。
LCD表示部に「BS」が点灯し、オートバッテリーセーブ機能が動作します。
同操作で、「BS」が消灯し、オートバッテリーセーブ動作を解除します。

オートバッテリーセーブ動作

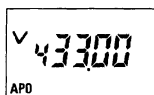
無操作、無信号が5秒続くと、オートバッテリーセーブ動作が開始し、周波数表示に戻ります。
ただし、DIAL NO.、DSQコード、オフセット周波数設定モード時は、10秒後に開始します。

注意

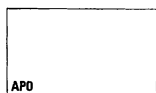
スキャン、プライオリティ、デュアルワッチ中、オートバッテリーセーブ機能は働きません。

5-21　オートパワーオフ機能

電源スイッチの切り忘れによる電池の消耗を防ぐ機能です。

設定方法

FUNC キーを押しながら 9/APO キーを押します。
LCD表示部に「APO」が点灯し、オートパワーオフ機能が設定されます。
同操作で、「APO」が消灯し、設定解除できます。

オートパワーオフ動作

APO

無操作､無信号が約30分続くと､メロディーが鳴り､LCD表示部に「APO」のみ点灯し、オートパワーオフ状態になります。

オートパワーオフの解除

① FUNC キーを押すと、解除できます。
②いったん電源を切り、再度電源を入れると解除できます。

5-22　スケルチオフ機能

SQL OFF ○ キーを押している間だけ、SQLツマミの位置に関係なくスケルチ動作が解除され、スピーカーより音が聞こえます。

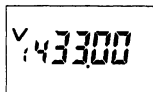
5-23　ダイヤルチェンジ機能

FUNC キーを押しながら V/M ○ キーを押すと、ダイヤルの状態を切り換えることができます。
以下、モード別の切り換えを示します。

VFOモード　　周波数変化⟷メモリーNO.変化

M点滅モード　　メモリーNO.変化⟷周波数変化

DIAL NO.設定モード、表示モード　　DIALメモリーNO.変化⟷DIAL NO.の左右シフト

5-24　リセット操作

FUNC キーを押しながら電源を入れると、本機はリセットされます。
リセットを行うと、下記の様になります。

DJ-462SX、DJ-460SX

V 433.00

DJ-162SX、DJ-160SX

V 145.00

	DJ-162SX	DJ-160SX	DJ-462SX	DJ-460SX
VFO周波数	145.00MHz		433.00MHz	
メモリーチャンネル	1		1	
チャンネルステップ	10kHz		10kHz	
シフト方向	なし		なし	
オフセット周波数	0.6MHz		5MHz	
トーン設定	なし		なし	
トーン周波数	88.5Hz		88.5Hz	
DSQ設定	なし		なし	
CALL周波数 メモリー周波数	145.00MHz		433.00MHz	

6 故障とお考えになる前に

症　　状	原　　因	処　　置
電源スイッチを入れてもディスプレイは何も表示しない。	a．バッテリーケースの接触不良 b．電池の＋、－の極性が逆になっている。 c．電池の消耗	a．バッテリーケースの電極のよごれなどを確認する。 b．極性を確認して電池を入れなおす。 c．乾電池は新しい電池と交換するNiCd電池は充電を行う。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	a．VOLツマミを反時計方向に絞りすぎている。 b．スケルチが閉じている。 c．トーンスケルチが動作している。 d．DSQが動作している。 e．PTTキーが押されて送信状態になっている。	a．VOLツマミを適当な音量にセットする。 b．SQLツマミを反時計方向に回す。 c．トーンスケルチ動作を解除する。 d．DSQ動作（ページャー、コードスケルチ）を解除する。 e．PTTキーをはなす。
スキャンしない	スケルチが開いている。	SQLツマミを雑音の消える位置にセットする。
メモリーの内容が消える	リチウム電池の寿命	リチウム電池の交換
周波数が変えられない	a．M点灯、C点灯である。 b．K.L/F.L機能が働いている。	a．点滅モードにする。 b．K.L/F.L機能を解除する。
送信中に、表示が点滅したり、表示が全て消えたりする。	電池の消耗	交換または充電する。 （電池が消耗した時、自動的に電源がOFFになる。）
送信しない。	a．電池の消耗 b．PTT.L機能が働いている。	a．交換または充電する。 b．PTT.L機能を解除する。

7 保守

7-1 アフターサービス

(1)保証書

保証書は必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および、記載内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。

(2)保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合は、お手数ですが、製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談下さい。保証書の規定に従って修理いたします。

(3)保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。
アフターサービスについて、ご不明な点は、お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。

7-2 リチウム電池の交換

マイクロコンピュータは、リチウム電池でバックアップされています。
したがって電源スイッチを切っても、メモリーは保持されます。
リウチム電池の寿命は約5年です。
バックアップされなくなった場合は、リウチム電池の寿命ですので、電池交換が必要です。
電池の交換は、お買い求めいただいた販売店、または当社サービス窓口にご相談下さい。

8 申請書の書き方

本機により、アマチュア無線局の申請をする場合は、市販の申請用紙に下記の事項をまちがいなく記載の上、申請して下さい。

〔無線局免許申請書〕

21 希望する周波数の範囲，空中線電力，電波の型式

周波数帯	空中線電力(W)	電波の型式
*1	*2	F3

〔工事設計書〕

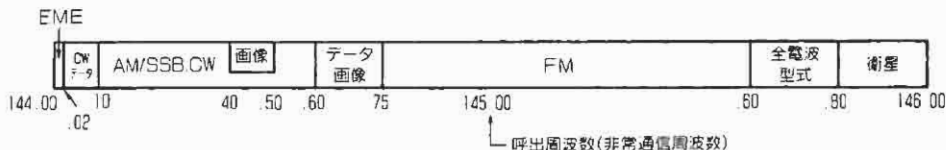
22工事設計		第1送信機	第2送信機
発射可能な電波の型式，周波数の範囲		*3 F3	
変調の方式		リアクタンス変調	
終段管	名称個数	*4	×
	電圧・入力	*5 V W	V W
送信空中線の型式		*6	
その他工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している	

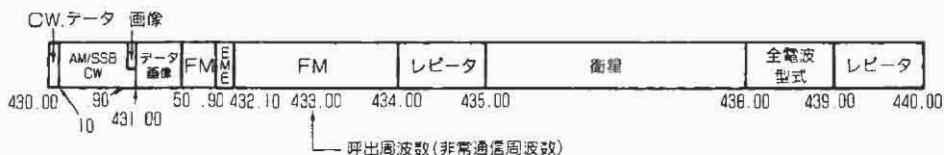
〔アマチュア局免許申請の保証願〕

無線設備等			保証認定料 円
		登録機種の登録番号もしくは名称	
送信機	第1送信機	*7	標章交付手数料
	第2送信機		標章交付手数料
	第3送信機		標章交付手数料
	第4送信機		標章交付手数料
	第5送信機		標章交付手数料
	第6送信機		標章交付手数料
添付図面 □ 送信機系統図 (附属装置の諸元の記載を含む)			合計
安全施設及びその他の工事設計			電波法第3章に定められた条件に適合している
送信空中線の型式			

	記入箇所	DJ-162SX	DJ-160SX	DJ-462SX	DJ-460SX
*1	周波数帯	144MHz		430MHz	
*2	空中線電力	10W		10W	
*3	周波数範囲	144MHz帯		430MHz帯	
*4	終段管の名称	M57796MAX1		M57797MAX1	
*5	終段管の電圧・入力	13.8V 14W		13.8V 22.77W	
*6	送信空中線の型式	使用する空中線の型式を記入して下さい。			
*7	登録番号・名称	DJ-162SX	DJ-160SX	DJ-462SX	DJ-460SX

9 JARL制定アマチュアバンド使用区分

144MHz帯

(注1) 144.10-144.20MHzの周波数帯は、主に遠距離通信に使用する。
(注2) データ及び画像通信の区分は、144.60-144.75MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。
(注3) 144.75-145.60MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。

430MHz帯

(注1) データ及び画像通信の区分は、431.00-431.50MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。
(注2) 431.50～434.00MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
(注3) レピータの入出力周波数は、別に定める。
(注4) 435.00～438.00MHzの周波数帯は、1991年12月31日までは、ATV通信に使用することができる。

10 オプション

- EBP-10N(7.2V 700mAH ニッカドバッテリーパック) ……5,900円
- EBP-12N(12V 700mAH ニッカドバッテリーパック) ……9,800円
- EDC-14(ACバッテリーチャージャー EBP-10N用) ……1,500円
- EDC-15(ACバッテリーチャージャー EBP-12N用) ……1,500円
- EDC-16(ノイズフィルター付シガライターケーブル) ……2,000円
- EDC-26(アクティブノイズフィルター付シガライターケーブル) ……2,000円
- EDC-13(シガライターケーブル) ……900円
- EBC-1(ベルトクリップ) ……500円
- EME-6(プチ型イヤホン) ……1,500円
- EME-4(イヤホンマイク) ……3,500円
- EMS-2(プチ型スピーカマイク) ……4,200円
- EME-10(VOX/PTT切換付ヘッドセット) ……6,300円
- ESC-10(ソフトケース標準サイズ、EBP-10N用) ……1,500円
- EJ-6U(トーンスケルチユニット) ……6,900円

(価格はすべて税別)

11 定格

DJ-162SX　DJ-160SX

■一般仕様

- 周波数範囲：
  144.000〜145.995MHz
- 定格電圧：DC9V
- 電波形式：F3
- マイク入力インピーダンス：2kΩ
- スピーカーインピーダンス：8Ω
- 外形寸法：(突起物含まず)
  132(H)×57(W)×32(D)mm
- 重量：350g(単3×6本使用時)

■送信部

- 送信出力：5W(EBP-12N)
  5W(DC IN 13.8V)
  3W(定格9V)
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：−60dB以下

■受信部

- 受信感度(12dB SINAD)：
  −15dBμ
- 受信方式：
  ダブルスーパーヘテロダイン方式
- 中間周波数：1st IF 55.05MHz
  2nd IF 455kHz

DJ-462SX　DJ-460SX

■一般仕様

- 周波数範囲：
  430.000〜439.995MHz
- 定格電圧：DC9V
- 電波形式：F3
- マイク入力インピーダンス：2kΩ
- スピーカーインピーダンス：8Ω
- 外形寸法：(突起物含まず)
  132(H)×57(W)×32(D)mm
- 重量：350g(単3×6本使用時)

■送信部

- 送信出力：5W(EBP-12N)
  5W(DC IN 13.8V)
  2.5W(定格9V)
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：−60dB以下

■受信部

- 受信感度(12dB SINAD)：
  −15dBμ
- 受信方式：
  ダブルスーパーヘテロダイン方式
- 中間周波数：1st IF 55.05MHz
  2nd IF 455kHz